

今日のトピック

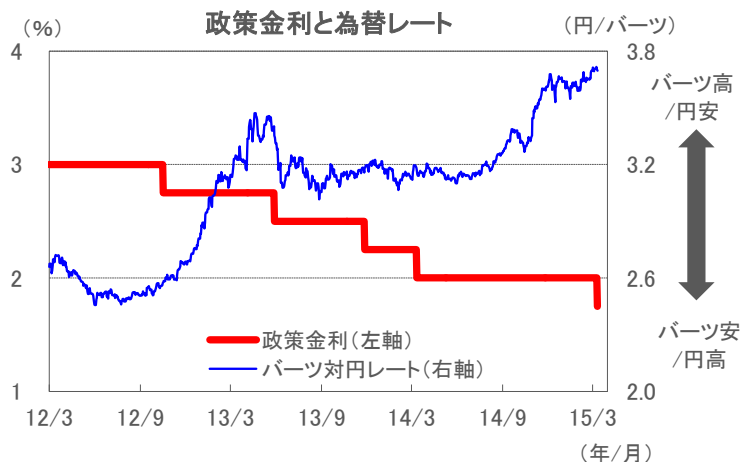
タイ中銀が予想外の利下げ

ポイント1 政策金利を0.25%引き下げ

利下げは約1年ぶり

■タイ銀行(中央銀行、以下中銀)は11日、定例の金融政策会合で政策金利を0.25%引き下げ1.75%とすることを決定しました。利下げは2014年3月以来、約1年ぶりです。ブルームバーグの集計によると、エコノミスト16名が政策金利の据え置きを、6名が利下げを予想しており、予想外の決定と言えます。

■今年に入りインド、インドネシア、中国で利下げが実施されるなど、アジア新興国では金融緩和の流れが強まっています。原油安などにより物価が下振れていることも背景です。



ポイント2 景気のでこ入れがねらい

物価上昇率は低下

■中銀は、消費と投資が予想以上に下振れているため、景気回復ペースがさらに鈍化すると見ています。利下げは、景気のでこ入れがねらいです。

■物価上昇率は、原油安により足元でマイナス圏に低下しています。中銀は、財やサービスの価格が上昇していることから、物価は目標(年+2.5%±1.5%)レンジを下回りながらも通年で+1%台前半で推移すると見ています。



(注) 政策金利とバスは2012年3月1日～2015年3月11日。

消費者物価指数は2012年2月～2015年2月。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

政策金利は据え置きへ、景気下振れの場合の利下げ余地を残す

■世界経済の回復や公共投資の拡大により、景気は回復に向かう見込みです。物価上昇率は、原油価格に底入れ感が出ていることなどから、中銀の見方に沿い緩やかに向上くと見られます。

■公共投資の実施が遅れたり中国向け輸出が下振れる場合には、追加利下げの可能性が残ります。

ここも チェック!

2015年03月11日 新興国通貨の動向

2015年03月04日 インド準備銀行が今年2度目の緊急利下げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。